

## コーディネーター の問題意識

村田 武（九州大学農学部）

ご紹介頂いた九州大学の村田でございます。農学部で農業政策を専門にしています。エフコープの学識理事をお引き受けしている関係で協同組合運動とも関わっているのですが、この『いま「協同」を拓く2002全国集会 in 九州』の全体会でこのようなリレートークのコーディネーターを仰せつかりました。日本労働協組の菅野理事長から問題提起がありました。これ踏まえて、6名の方と討論をしようということでありました。

本日の集会の大きなテーマでもある「この日本と世界をどうする～グローバル化に対抗する地域再生の新生パワーをもとめて」に沿って議論をできればと思っています。

この研究集会は、九州で開催されるのは初めてということでありました。佐木先生の歴史的なお話も念頭に置きながら、この北九州市の八幡東区で開催している意味は大変大きいのだと思います。私たちが21世紀の頭に将来を考える時に歴史を踏まえざるを得ない。その時にこの場というのは見事に日本の明治維新以降の歴史の象徴的な



ところであると。101年前にこの官営八幡製鉄所が作られました。さらに、（私は小倉生まれなのですが）小倉にあった陸軍の連隊はちょうど100年前1901年に演習場を現在問題になっている大分の日出生台に作っています。私たちのこれからを考える時に北九州市の八幡という場所にお集まり頂いたということは、非常に意味があるんだろうと思います。

何が言いたいかということ、先ほどの菅野さんの問題提起を九州で考えてみる、具体的にリアルに九州の現場で考えてみようではないか、ということです。報告でも出てきますが、北九州市は全国の政令指定都市の中でも高齢化率No.1で、八幡東区というのは何と25%を超えています。農業経済学者ですから25%というのは農村だけの問題かと思っておりましたが、都市における高齢化問題もあります。私たちは北九州を会場として、コミュニティケアの問題から始まって、九州から「グローバル化に対抗する新生パワーを求めて」というこのテーマに踏み込んでみようか、ということになります。

九州最初の集会ということでは日本母親大会も全国大会を始めて九州・北九州市小倉で開いています。その時の記念講演はアフガニスタン・ペシャワール会の中村先生でした。この八幡製鉄でつくられた鉄が、あのニューヨーク・世界貿易センタービルの鉄骨だったんですね。新博覧会の溶鉱炉の博物館にパネルがあります。

今月後半には首都圏でも千葉集会が行われます。私たちは九州で私たちの活動がどこまで来ているのか、九州から何が言えるのか、ということを考えてみようではないか、というのがコーディネーターとしての私の主題と意欲であるわけです。

それでは、第1報告からお願いします。

